



Innovation Summit

事例が語るビジネス改革

成功へのアプローチ～それはSOA

C-2

フロントエンドでのシステム統合による経営の可視化、情報共有の徹底

旭化成メディカル株式会社
情報システム部

上野 公志

IBM

本日の内容

- 旭化成メディカル会社概要
- フロントエンドシステム統合
 - 情報システムアンケート
 - 課題解決へのアプローチ
 - 経営の可視化（BI レポート開発）
 - 情報共有の徹底と操作性の向上（ポータル導入）
- 取り組みの成果と今後の課題
- ポータル再考察（SOA の視点から）



Innovation Summit
事例が語るビジネス改革
成功へのアプローチ～それはSOA

2

旭化成メディカルの概要-1

- 業種 医療機器 製造・販売
- 取扱品目
 - 人工腎臓
 - 機能商品（難病治療用血液浄化フィルター）
 - セパセル（白血球除去フィルター）
 - プラノバ（ウイルス除去フィルター）



腎不全患者用人工腎臓
（透析事業部）



白血球除去フィルター
（セパセル事業部）



難病治療用血液浄化フィルター
（機能商品事業部）

膜技術



ウイルス除去フィルター
（プラノバ事業部）

旭化成メディカルの概要- 2

- 創立 1974年7月
- 資本金 8億円
 - 旭化成ファーマ(株) 100%出資
 - 旭化成ファーマ(株)の持株会社は旭化成(株)
 - (平成18年10月現在)
- 売上高 401億円
 - (平成18年3月決算)
- 従業員数 約1700名
 - (平成18年10月現在)

旭化成メディカルの概要- 3

- 拠点
 - (事業所)
 - 本社(東京都千代田区神田)
 - 営業所:東京・横浜・大阪・名古屋・福岡・中四国・仙台・札幌
 - 米国事務所
 - 延岡製造所 恒富工場(紡糸)、岡富工場(紡糸)、プラノバ工場
 - 大分製造所 大分工場(製品組立)
 - 技術開発部(大分、延岡)、ME機器センター(富士)
 - (関係会社)
 - 旭化成メディカルヨーロッパGmbH(ドイツ 100%子会社)
 - N.V.旭化成プラノバヨーロッパS.A(ベルギー 100%子会社)
 - 旭化成メディカルアメリカ(株)(米国 100%子会社)
 - 旭化成医療機器(杭州)有限公司(中国 100%子会社)
 - 韓国日機装旭化成メディカル(株)(韓国 当社、日機装 各50%合弁会社)
- (2006/10月末時点)

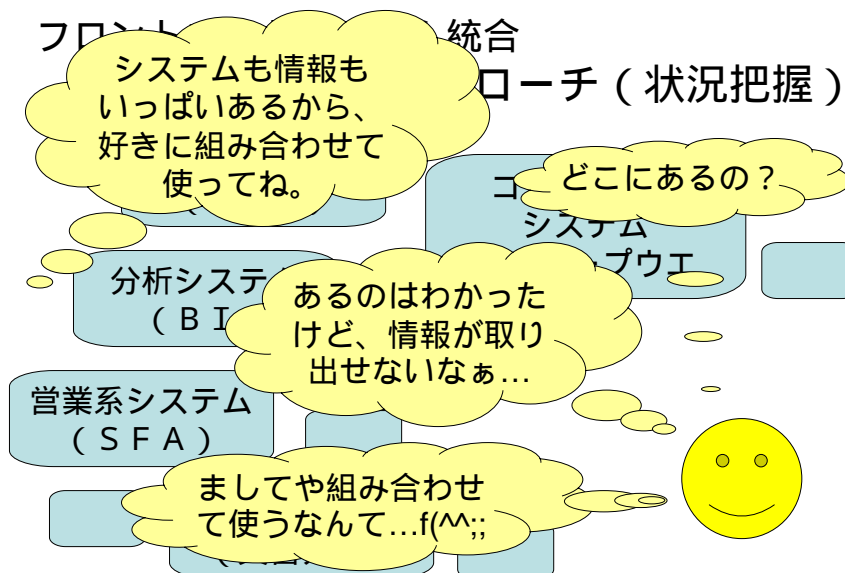
フロントエンドシステム統合 情報システムアンケート実施

- 対象者：経営層を中心に約80名
- 時期：2003年8月～9月
- 結果：
 - R/3（SAP社製ERP：弊社の基幹系）の分析機能、BW（SAP社製BI）の利用率は極めて低い。
 - 主な意見
 - 情報がどこにあるかわからない。
 - システムが多数存在し使いにくい。

➡ データ(情報) はまだまだ十分に活用されていない！

➡ 課題：経営の可視化、情報共有の徹底、操作性の向上

フロントエンドシステム統合 アプローチ（状況把握）



フロントエンドシステム統合 課題解決へのアプローチ（課題整理）

- どこにあるの？
 - 入り口を一つに
 - 最初の画面に表示すべき情報を精査（情報量と一覧性）
- 情報が取り出せないなあ...
 - 情報までの道を短く、平坦に
 - 全ての情報へ等距離でなく利用頻度の高い情報ほど身近に
- 組み合わせさせて使うなんて...
 - 組み合わせさせてからの情報提供
 - そもそもユーザに組み合わせを意識させる必要は無い。
クライアントのブラウザ化、シングルサインオン

システム全体の
課題

個別アプローチ
も必要

システム全体の
課題

フロントエンドシステム統合 課題解決へのアプローチ（最初の一步）

- 個別アプローチ
「重要であるにもかかわらず十分に活用されていない
（取り出されていない）情報とは？」
 - ↓
 - 基幹系データ（経営）の可視化に取り組む
 - ↓
 - BI レポート開発（BW 2nd STEP）
- 全体システム課題への対応
 - ↓
 - 情報への到達を容易にし情報共有を徹底する。
 - ↓
 - ポータルへの導入

フロントエンドシステム統合 経営の可視化（BI レポート開発）

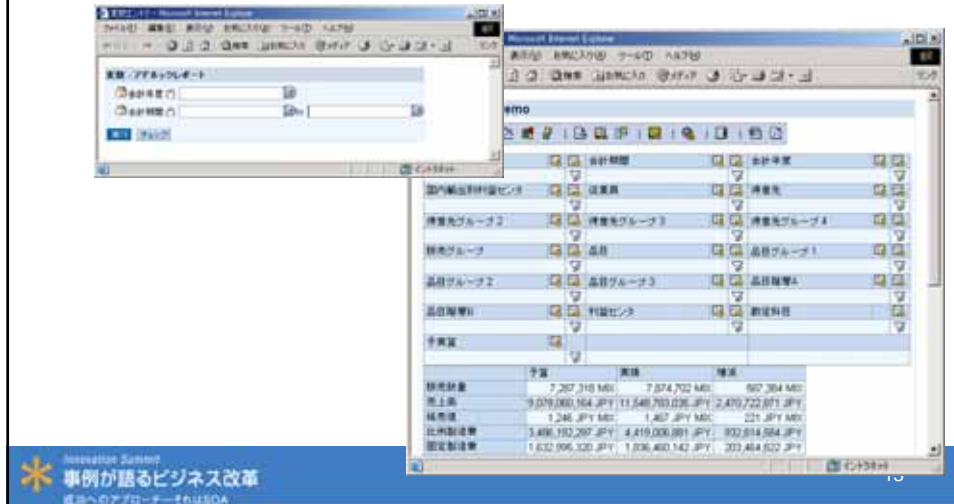
- 時期：2004年2月～7月
- 目的：経営の可視化
 - R/3 データの経営判断への有効活用とその定着
 - ユーザインタフェースのブラウザ化
 - グラフ表示の実現
 - その後の自社主体開発、運用(アプリ部)を可能にする BW レポート開発スキルの習得

フロントエンドシステム統合 経営の可視化（BI レポート開発）

- 開発方針（情報までの道を短く、平坦に）
 - 経営層用と実務者用は別々に作成する
 - トレンドデータはグラフで表示する
 - 余計な操作は不要にする
 - SAP 独有用語は排除する(例:「会計期間」は使用しない)
 - 用語の意味を社内統一する(計算式は一つ)
 - データの補正は行わない(生の数値を表示する)
 - 表示までの時間を極限まで短縮する
 - レポートの定型化と夜間生成

フロントエンドシステム統合 経営の可視化 (BI レポート開発)

レポート例：一般的な BW レポート



Innovation Summit
事例が語るビジネス改革
成功へのアプローチそれはSOA

フロントエンドシステム統合 経営の可視化 (BI レポート開発)

レポート例：今回開発した BW レポート



Innovation Summit
事例が語るビジネス改革
成功へのアプローチそれはSOA

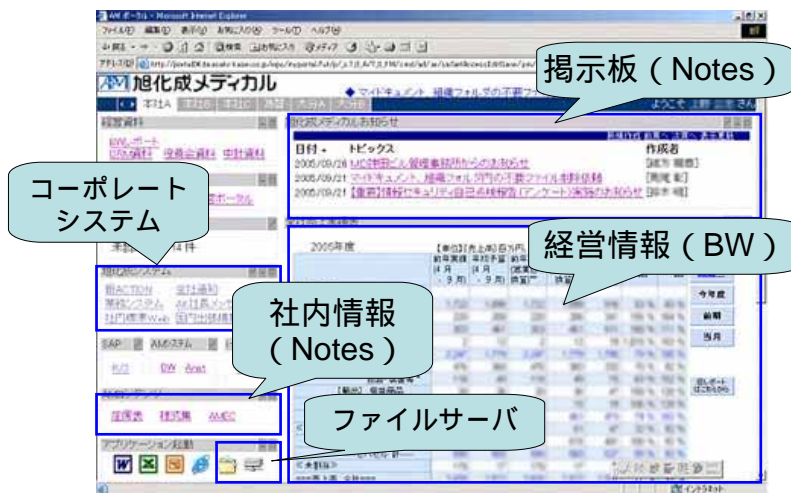
フロントエンドシステム統合 情報共有の徹底と操作性の向上（ポータル導入）

- 製品：
 - WebSphere Portal（IBM 社）
- 時期：
 - 2004年5月：経営層向け評価用ポータル稼動
その後のアンケートで9割以上のユーザから
「使い易い」の評価
 - 2005年4月：旭化成メディカル全社ポータル稼動
公開は段階的(4月～8月：本社 営業所 工場)

フロントエンドシステム統合 情報共有の徹底と操作性の向上（ポータル導入）

- 開発方針（業務でよく使うもののみを配置）
 - ユーザが必要な情報、業務は一画面内に配置する。
 - リンク集にはしない。
 - ユーザはページのカスタマイズ不可。
(会社が見せたい情報を見せる。)
 - 全社売上データをトップページに配置。
(前日までの売上を営業日換算した予算対比で表示)
 - ポータル環境上には原則コンテンツは開発しない。
 - 全てのシステムをシングルサインオンにする。
 - まずは、組織に密着したページは作成しない。
(本社A, B, C、大分A, B、延岡A, B でスタート)

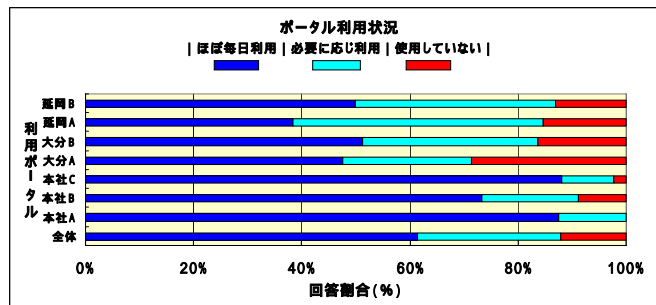
フロントエンドシステム統合 情報共有の徹底と操作性の向上（ポータル導入）



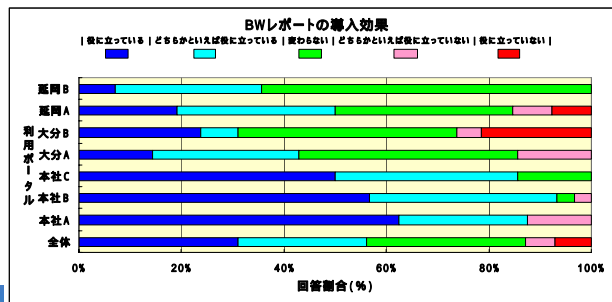
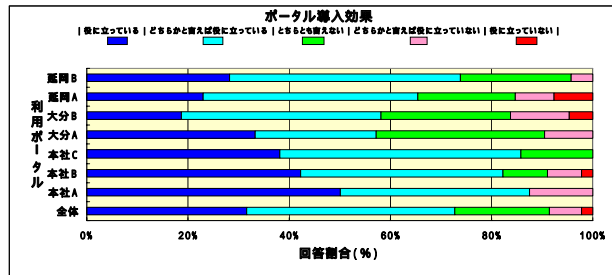
取り組みの成果と今後の課題

導入後アンケート

- 対象者：ポータル各ページ利用者から無作為抽出
合計300人強
- 時期：2006年6月～7月
- 結果：



取り組みの成果と今後の課題



取り組みの成果と今後の課題

- 主な改善要望（ポータル）
 - リンク先の追加
 - 個人ごとのカスタマイズ
- 主な改善要望（BW レポート）
 - パフォーマンス向上
 - 月次更新データの日次化
 - 使い方説明会の開催、マニュアルの充実

取り組みの成果と今後の課題

日常業務での実感

- 「経営の可視化」による経営層の利用促進
 - 経営層からの問い合わせ増加
 - 月例報告での Excel 表減少
 - BW レポート上の数値が共通語に
- 「情報共有の徹底」による伝達方法の変化
 - メールベースの連絡から掲示板連絡へ

次の一歩

一般社員層をターゲットにしたシステム改善

ポータル再考察（SOA の視点から）

今回ポータルで実現したことは...



既に存在するサービス（システム）を環境に合わせてシンプルに組み合わせ、提供。



次々と環境の変わる中、それをいかに迅速かつ柔軟に実現するか、が重要



IT 技術としての SOA、考え方としての SOA

ポータル再考察（SOA の視点から）

これからは SOA という考え方が非常に重要。

だとしても...

- ・ IT 技術としての SOA が一般化するにはまだ時間が必要。
- ・ 今既にあるシステムをどうするかも重要。



SOA の第一歩としてポータルをとらえる。

ポータル再考察（SOA の視点から）

これまでのポータル

- ・ 情報の統合表示による検索性の向上
 - ・ 知識共有による作業の効率化
 - ・ 情報に到達するまでの時間短縮
- 生産性の向上



- ・ サービスをユーザインタフェースのレベルで連携
- ・ IT 技術としての SOA 普及をユーザの目から隠す

新しいポータルの可能性

ご清聴ありがとうございました。

旭化成メディカルURL

<http://www.asahikasei-medical.co.jp>

本事例紹介のお問い合わせ先

ueno.kj@om.asahi-kasei.co.jp